

平成25年度第1回「青森競輪経営企画委員会」 ― 会議概要

日時：平成25年11月5日（火）15：00～

場所：青森市役所 第3庁舎「1階・会議室B」

出席者

加川委員、佐藤委員、中村委員、奈良委員、福士委員 [以上5名]

(欠席委員) 出町委員 [以上1名]

(五十音順、敬称略)

事務局

企画財政部長	伊藤 哲也	競輪事業所主査	渡邊 和則
企画財政部次長	増田 一	競輪事業所主査	菊池 圭一郎
競輪事業所長	内山 儀彦	競輪事業所主事	工藤 剛
競輪事業所副所長	小山 和紀		[計8名]
競輪事業所主査	高村 謙一		

次第

1. 開会

2. 案件

- ・資料1 平成26年度以降競輪包括委託プロポーザルの結果について
- ・資料2 本場耐震化の必要性及び新場外車券売場の対応について
- ・資料3 青森競輪事業の現状（平成24年度実績）
- ・資料4 次期包括委託期間（7年間）に目指すべき方向性について
- ・資料5 中期経営計画策定の基本的な考え方
- ・資料6 借上開催の検討について
- ・フリートークキング
- ・その他

会議概要

○ 事務局より資料に沿って説明し、その後の質疑応答及び主な意見は以下のとおり。

・資料1 平成26年度以降競輪包括委託プロポーザルの結果について

<質疑応答>

○ 質疑応答なし

・資料2 本場耐震化の必要性及び新場外車券売場の対応について

<質疑応答>

○委員

仮に耐震改修が必要となった場合、どれくらいの費用になるのか。

●事務局

耐震診断の結果が出なければ積算できない。

○委員

なぜ、今、競輪場施設が旧耐震基準であることが判明したのか。

●事務局

本場施設については、竣工が昭和57年10月であり、新耐震基準施行（昭和56年5月）直後に建築されたものである。昨年度に精査した結果、昭和53年9月5日に建築確認を行った、本場メインスタンド及び選手管理棟Aは、旧耐震基準の「特定建築物」であることが判明した。このことから耐震改修促進法に定める「特定建築物」の所有者に、耐震診断の実施、耐震改修の努力義務が課せられていることから、耐震診断を実施するものである。

○委員

新場外車券売場の設置検討に向けた対応については、耐震診断の判定状況により、別途検討が必要であると認識する。

・資料3 青森競輪事業の現状（平成24年度実績）

<質疑応答>

○委員

平成24年度の車券売上の増加要因は何か。

●事務局

主な要因は、坂本勉カップにおける場外発売の促進が奏効し、売上の増加につながった。また、ミッドナイト競輪を2日間開催し売上が伸びたこと、記念競輪の売上が伸びたことが要因である。

・資料4 次期包括委託期間（7年間）に目指すべき方向性について

<質疑応答>

○委員

青函ツインシティ交流について、青森市・函館市がもつ競輪場を交流資源として、競輪の切り口からも積極的に取り組んでほしい。

○委員

今後、2～3年ごとに特別競輪（GI）の開催を目指してもらいたい。

・資料5 中期経営計画策定の基本的な考え方

<質疑応答>

○委員

一般会計への繰入額は今後どのようになるのか。

●事務局

資料には、一般会計への繰入額を1,000万円、3,000万円、5,000万円、現行1億円のケースで基金残高がどのような傾向をたどるのか示したものである。

○委員

耐震診断の判定結果によっては、費用が嵩むことも想定される。繰入金額については、耐震診断の結果が出てからでないと、どの程度がいいのか判断できないと思う。いずれにしろ、将来的に競輪事業の運営に支障があってはならないと思う。

●事務局

考え方として、平成19～25年度までの現行の包括委託期間を第1期間として捉え、その期間は、現状の1億円を継続して繰り入れてきた。

次の包括委託期間、平成26～32年度を第2期間として捉え、今後の経営上の課題を踏まえたうえで、今後の繰入額と基金の積立額をどのようにバランスよく両立させていけばいいかを視点を検討していきたいと思っている。今後、事務局において、一般会計繰入額を含む平成26年度からの中期経営計画を策定することになるが、その中で検討し委員の皆様からご意見をいただきたいと考えている。

○委員

現状では1億円だが、今後の競輪事業の課題等を踏まえて、適切な繰入額を検討する必要があると思われる。

○委員

競輪事業で新たに資金が必要な場合、一般会計には頼れないのではないかと。その為に独自に基金を貯め、資金力を強化する必要があると思われる。

○委員

色々意見があると思うが、市の財政や競輪事業の経営を圧迫しないように等、バランスよく考える必要があると思われる。

・資料6 借上開催の検討について

<質疑応答>

○委員

借上開催を導入した場合、年間の開催日数の割り振りにどう影響するのか。

●事務局

開催日数は、競輪業界全体として検討していくことになると思われるが、今後、仮に導入した場合、冬期間に他場での開催や、災害時のリスク対応が可能となり、経営環境に柔軟性を持たせることができると認識している。

今後は本委員会及び議会等の意見を聞きながら、その環境整備を進めていきたいと、考えている。

<フリートーキングでの主な意見>

○委員

今年度から行っている、競輪場の子ども広場（大型すべり台、おもしろ自転車）を幼稚園、保育所の遠足場所として提供していることは、非常に良いことである。更に利用促進に努めるべきである。

○委員

競輪事業活性化のため、青森競輪の強みを活かして可能性のあることは、前向きに取り組んでいくべきである。

○委員

収益性の高いミッドナイト競輪の開催日数をできる限り増やすべきである。

●事務局

今年度は、5月～6月にかけてバンクの路面改修があり、本場でレースができない期間があったが、来年度は、開催日数を増やす方向で調整していく。また、今後において、青森競輪として、冬期間に他の競輪場を借り上げてのミッドナイト競輪の開催や、青森競輪場の施設としての機能を有効に活用する為に、他施行者主催のミッドナイト競輪を誘致し、経営の柔軟性を高めるとともに、更なるミッドナイト競輪の認知度及び収益の向上に努めて参りたい。

（文責 競輪事業所）